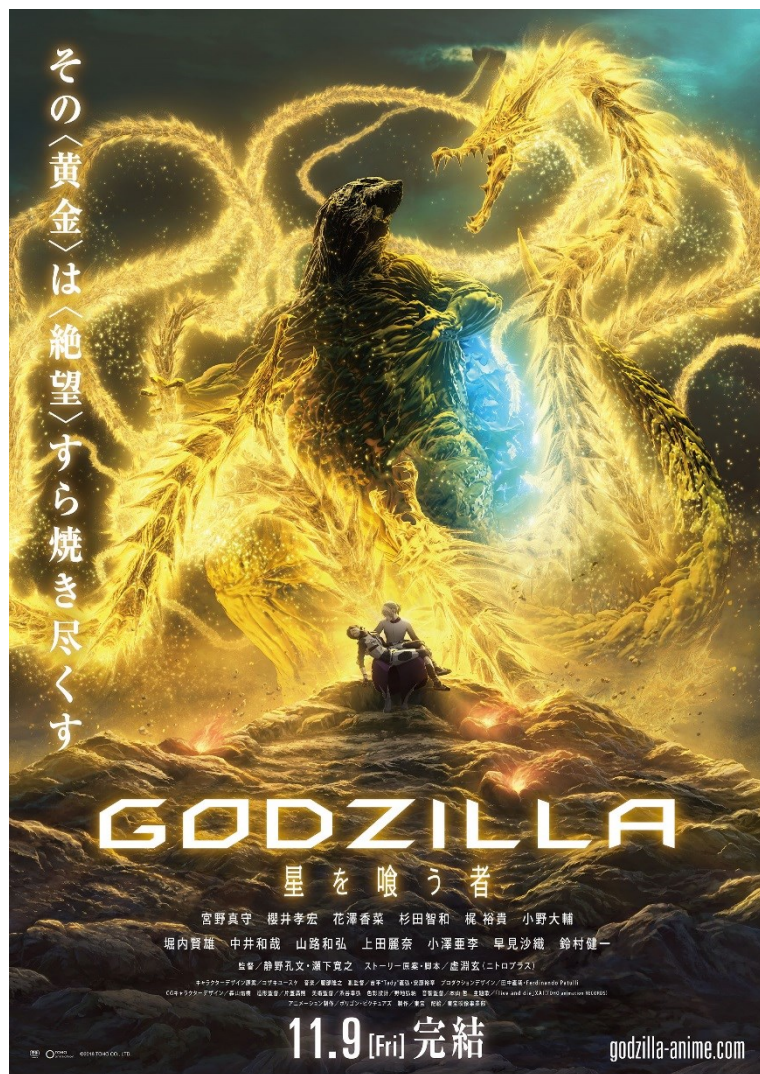


2019年2月期 第2四半期 (2018年3月1日～2018年8月31日)

決算説明資料



2018年10月12日(金)

東宝 TOHO

©2018 TOHO CO., LTD.

2019年2月期 第2四半期 営業概況

	2018年2月期 (2017年3月～8月)	2019年2月期 (2018年3月～8月)	前年同四半期比	増減率
営 業 収 入	139,297百万円	132,984百万円	▲6,312百万円	-4.5% ▼
営 業 利 益	32,274百万円	25,264百万円	▲7,009百万円	-21.7% ▼
経 常 利 益	33,288百万円	26,355百万円	▲6,932百万円	-20.8% ▼
親会社株主に帰属する 四半期純利益	22,875百万円	16,849百万円	▲6,025百万円	-26.3% ▼

【第2四半期の営業概況】

主力の映画事業において、『劇場版コード・ブルー -ドクターヘリ緊急救命-』が興行収入90億円を超え夏休み作品No.1の大ヒットとなり業績を牽引。『劇場版ポケットモンスター みんなの物語』が興行収入30億円を超えたことに加え、『ジュラシック・ワールド／炎の王国』（東宝東和）、『ミッション：インポッシブル／フォールアウト』（東和ピクチャーズ）がヒットを記録したものの、前年同期に記録的セールスをあげた『シン・ゴジラ』『君の名は。』のパッケージ販売の反動が大きく、減収減益。

演劇事業では、『ナイツ・テイルー騎士物語ー』や『ゴースト』等の話題作が盛況で増収となるも、帝国劇場のリニューアル費用の計上により減益。

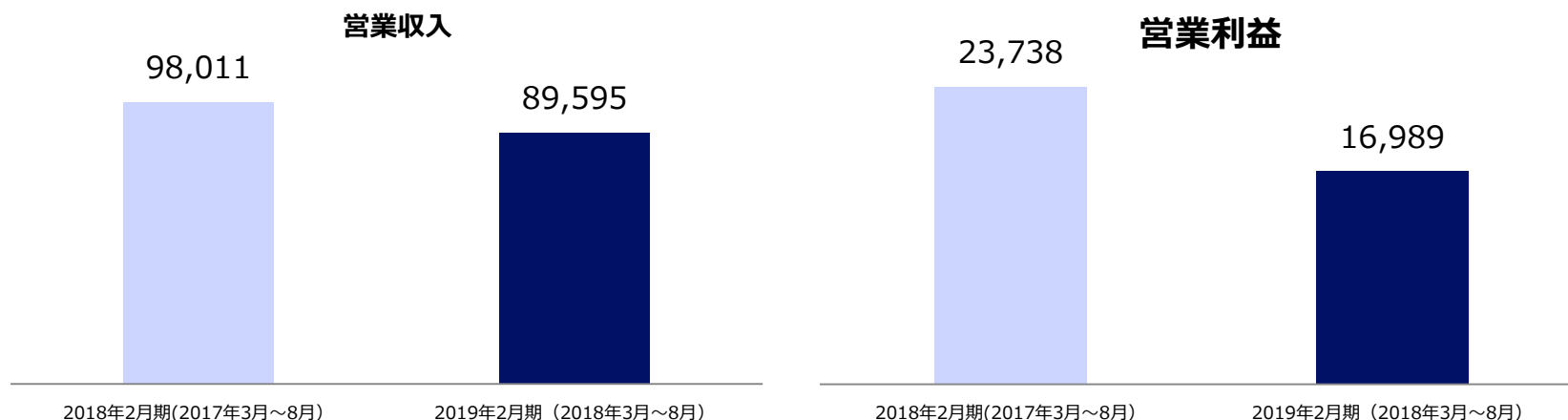
不動産事業は、空室率も低く堅調に推移し、増収増益。

その結果、前年同期には及ばず減収減益になったものの、第2四半期決算としては各段階で歴代2位となる高水準の業績を達成。

セグメント別業績一覧

営 業 収 入（単位：百万円）				営 業 利 益（単位：百万円）			
2018年2月期 (2017年3月～8月)		2019年2月期 (2018年3月～8月)	増減率	2018年2月期 (2017年3月～8月)		2019年2月期 (2018年3月～8月)	増減率
①映画事業	98,011	89,595	-8.6% ↓	23,738	16,989	-28.4% ↓	
映画営業	30,251	29,476	-2.6% ↓	8,775	6,247	-28.8% ↓	
映画興行	45,128	44,784	-0.8% ↓	8,355	8,048	-3.7% ↓	
映像事業	22,632	15,334	-32.2% ↓	6,607	2,693	-59.2% ↓	
②演劇事業	7,447	8,312	11.6% ↑	1,629	1,271	-22.0% ↓	
③不動産事業	31,788	32,788	3.1% ↑	8,646	8,719	0.8% ↑	
不動産賃貸	15,144	14,517	-4.1% ↓	6,107	6,350	4.0% ↑	
道路事業	11,854	12,823	8.2% ↑	2,112	1,871	-11.4% ↓	
不動産保守・管理	4,789	5,448	13.8% ↑	427	497	16.2% ↑	
④その他事業	2,050	2,287	11.6% ↑	93	100	7.6% ↑	

セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 映画営業事業では、『劇場版コード・ブルー -ドクターヘリ緊急救命-』が興行収入90億円を超え夏休みNo.1作品として業績を牽引。『劇場版ポケットモンスター みんなの物語』が興行収入30億円を、『未来のミライ』が興行収入28億円を超えるなど高い水準で推移。また、東宝東和等配給作品は『ジュラシック・ワールド／炎の王国』が興行収入80億円を超え、『ミッション：インポッシブル／フォールアウト』も興行収入46億円を超えるなどヒット作はあったが、『怪盗グルーのミニオン大脱走』『SING／シング』『ワイルド・スピード ICE BREAK』があった前年に及ばず、減収減益。
- 映画興行事業では、上記の当社グループ配給作品に加えて、『インクレディブル・ファミリー』（ウォルト・ディズニー）、『万引き家族』（GAGA）等のヒット作があり、夏興行は高水準で稼働したものの、3月から8月の累計興行収入では前年にわずかに及ばず、減収減益。
- 映像事業では、アニメ製作事業では『名探偵コナン ゼロの執行人』等に製作出資。出版商品事業では『劇場版ポケットモンスター みんなの物語』等のアニメ作品のパンフレット・キャラクターグッズのセールスが好調に推移。パッケージ事業においては、『舞台「刀剣乱舞」ジョ伝 三つら星刀語り』等が好調に推移したが、前年同期に記録的なセールスをあげた『シン・ゴジラ』『君の名は。』のパッケージ販売の反動が大きく、減収減益。

映画 - 第2四半期主要稼働作品 -

東宝(株)配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開月	興行収入
劇場版コード・ブルー -ドクターヘリ緊急救命-	2018年7月	90.6億円
劇場版ポケットモンスター みんなの物語	2018年7月	30.0億円
未来のミライ	2018年7月	28.2億円
検察側の罪人	2018年8月	27.2億円
僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ～2人の英雄～	2018年8月	15.9億円
センセイ君主	2018年8月	12.0億円

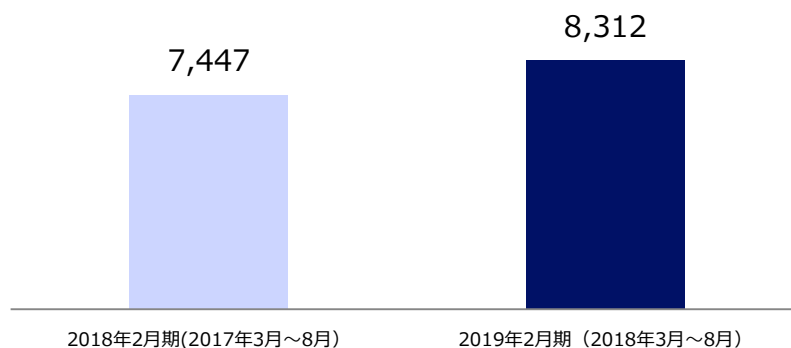
東宝東和(株)等配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開月	興行収入
ジュラシック・ワールド／炎の王国	2018年7月	80.6億円
ミッション：インポッシブル／フォールアウト	2018年8月	46.7億円

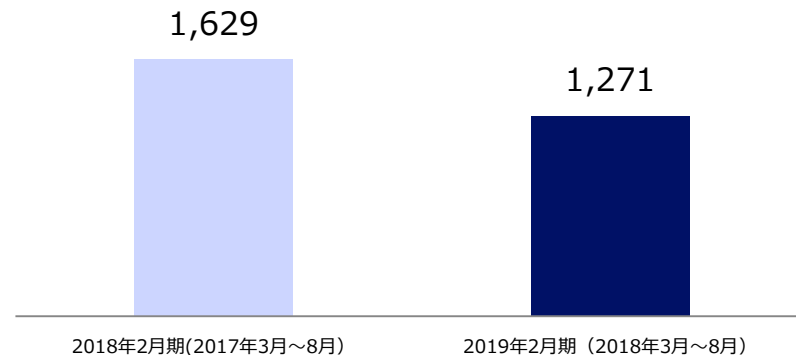
（興行収入は2018年9月末時点）

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 帝国劇場では、『モーツァルト！』（6月公演）が大入り、堂本光一、井上芳雄の競演によるオリジナル・ミュージカルの新作『ナイツ・テイルー騎士物語ー』（7月～8月公演）も全日程完売となる大盛況。
6月29日から7月24日にかけて休館し、お客様により良い観劇環境を提供するために、正面エントランスをはじめ、ロビー、座席、お手洗、売店等の大規模なリニューアルを実施。
- シアタークリエでは、『ジャニーズ銀座2018』（6月公演）は全チケットが即日完売。『シークレット・ガーデン』（6月～7月公演）や、日本初上演となる『ゴースト』（8月公演）が幅広い客層に支持されて盛況。
- 外部公演では、『1789 -バスティーユの恋人たち-』や、『モーツァルト！』等の東宝製作公演を大阪、福岡、名古屋など全国各地で展開し、増収に貢献。
演劇事業全体としては、帝国劇場のリニューアル費用を計上したこと等により、増収減益。

演劇事業 -主要稼働作品-



5月～6月 帝国劇場公演
『モーツァルト！』



7月～8月 帝国劇場公演
『ナイツ・テイルー騎士物語ー』



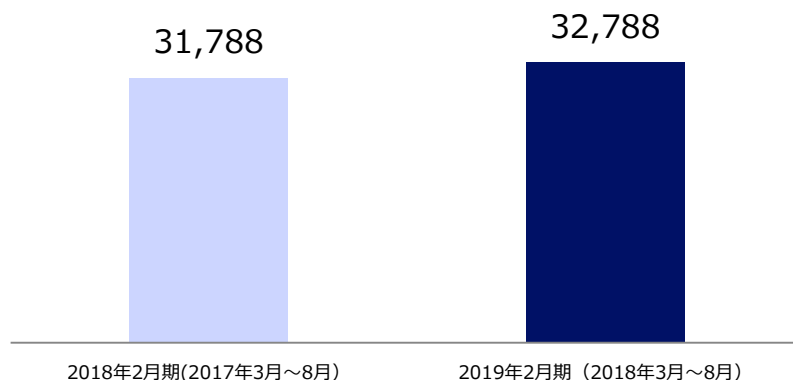
6月～7月 シアタークリエ公演
『シークレット・ガーデン』



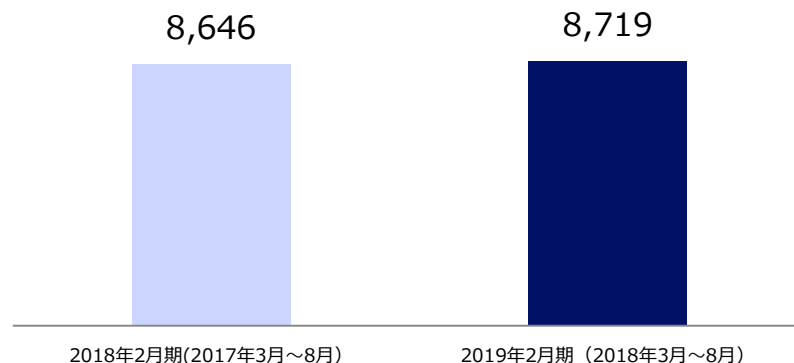
8月 シアタークリエ公演
『ゴースト』

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件がほぼ空室なく高水準に稼働するも、前年の「天神東宝ビル」再開発に伴う償却費がなくなったこと等の影響もあり、減収増益。3月にショッピングセンター「日比谷シャンテ」のリニューアルを実施。東宝スタジオは、当社配給作品の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。
- 道路事業では、スバル興業(株)グループが積極的な営業活動を行い、受注の拡大を図った結果、増収となるも、前期ほど利益率の高い工事がなかったこと等により減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ファシリティーズ(株)、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、新規受注の開拓とコスト削減に取り組み、増収増益。

映画 & 演劇 話題の待機作品



MOVIE LINE UP



11月9日（金）ロードショー

ゴジラ映画初のアニメーション作品となった『GODZILLA』シリーズ最終章。
三部作の完結編『星を喰う者』では、虚空の神〈ギドラ〉と破壊の王〈ゴジラ・アース〉がついに激突

『GODZILLA 星を喰う者』

監督：静野孔文、瀬下寛之 脚本：虚淵玄
声の出演：宮野真守 櫻井孝宏 花澤香菜 杉田智和 梶裕貴
©2018 TOHO CO., LTD.



12月7日（金）ロードショー

この冬、人間の心の闇を描く、最恐エンタテインメントが、来る！
興行収入38.5億円の大ヒットを記録した、映画『告白』中島哲也監督の最新作

『来る』

原作：澤村伊智「ぼぎわんが、来る」（角川ホラー文庫刊）
監督・脚本：中島哲也
出演：岡田准一 黒木華 小松菜奈／松たか子／妻夫木聡
©2018「来る」製作委員会



2019年1月18日（金）ロードショー

「ガリレオ」「新参者」に続く新HERO誕生。東野圭吾、新たな傑作ミステリー始動！
潜入捜査官×ホテルマン 正反対のコンビが、連続殺人事件に挑む！

『マスカレード・ホテル』

原作：東野圭吾「マスカレード・ホテル」（集英社文庫刊）
監督：鈴木雅之 脚本：岡田道尚
出演：木村拓哉 長澤まさみ
©2019映画「マスカレード・ホテル」製作委員会 ©東野圭吾／集英社

STAGE LINE UP



10月～11月 帝国劇場公演
『マリー・アントワネット』



12月～1月 帝国劇場公演
『ジャニーズ King&Prince アイランド』



11月～12月 シアタークリエ公演
『ピアフ』



12月 シアタークリエ公演
『オン・ユア・フィート!』

業績予想

■ 2019年2月期連結業績予想（2018年3月1日～2019年2月28日）

第2四半期が好調に推移したことを踏まえ、且つ、今後の業績動向を勘案し、期首の業績予想を修正いたしました。

（％表示は、対前期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円、銭
通 期	236,000	-2.7	40,000	-15.9	41,800	-14.1	27,400	-18.3	152.34

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ

東宝株式会社

総務部 広報・IR室

TEL 03-3591-1303